

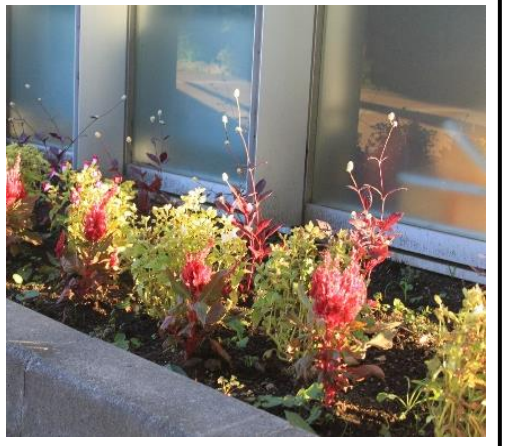


題字 井口 文章
再刊 第435号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2023

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：今期生徒会の振り返りも届け！
進路イベントの様相を紹介
二面：関東大震災から百年
防災大特集！

来年も新たな改革を 今までの活動を振り返る



生物部が整備した花壇
今年の錦城祭のテーマだった
「再起動」に合わせて千日紅など
3種類の花が植えられている

学校を彩る優しい花

校門から入って左に進んだところ、先生方の昇降口のとこに様々な種類の花が咲いているのを知っているだろうか。あの花たちは生物部が植えているものだ。生物部長の吉田凛音さん(2)によると、去年の冬から花壇に植物を植え始めたそうで、錦城祭に合わせて植え直したそうだ。「錦城祭の時に花壇を見た来



「生徒が可能性を広げられる環境づくりを頑張ってください」

しかしながら、達成できなかったこともあるそうで生徒会長の高梨恭一さん(3D)は「できる範囲のことはやりましたが、生徒の皆さんから聞いた意見を具体的な形として残せなかったことが心残りです」と今年一年の活動について振り返った。

生徒会長を務めた高梨さん

今年11月に発足し今期生徒会は様々な活動を行ってきた。代表的なものでは、夏期のポロシャツや女子の短い靴下の導入、テレビ東京の『田村淳のTamarita』内のFC東京とのコラボなどが挙げられる。

公約として掲げていたのは、中央委員会の内部改革と自習室の開放時間の延長。それぞれ達成率は80パーセントと65パーセントだという。

特別力を入れたのは中央委員会の内部改革で、具体的には一般委員の中に一人ずつだった書記と会計という役職を、会計をなくして管理に充て、広報という役職を増やし、2年全員が役職に就けるようにしたこと、以前は自由に入ることができた一般委員だが、入る際に面接を設けることで、モチベーションが高く向上心が高い人が入れるように変えたことだそう。新しく作られた管理という役職は、定例会の運営や生徒会長

11月15日水曜日に生徒会役員選挙が実施される。新生徒会発足に伴い、今期生徒会の任期が終了する。今号では、これまで錦城生をリードしてきた五人に公約の達成度や次期生徒会へのメッセージなどを聞いた。

が公約として掲げていたのは、中央委員会の内部改革と自習室の開放時間の延長。それぞれ達成率は80パーセントと65パーセントだという。特別力を入れたのは中央委員会の内部改革で、具体的には一般委員の中に一人ずつだった書記と会計という役職を、会計をなくして管理に充て、広報という役職を増やし、2年全員が役職に就けるようにしたこと、以前は自由に入ることができた一般委員だが、入る際に面接を設けることで、モチベーションが高く向上心が高い人が入れるように変えたことだそう。新しく作られた管理という役職は、定例会の運営や生徒会長

の補佐を主に任せている。長く生徒会として経験を積んできた3年が定例会などを取り仕切ることで、2年の副会長が仕事を覚え今後には生かすことが設置した目的だという。高梨さんは次期生徒会に向けて「大変なこと多いと思いますが、生徒が可能性を広げられるように、皆さんの選択肢を与えられるようによりよい環境づくりを頑張ってください」とメッセージを送った。

生徒総会・選挙まであと2日！



個性あふれる職員室前の選挙ポスター

60回生の新しい挑戦？

来年の7月25日から27日に計画されている2泊3日の勉強合宿案について、2年生にアンケートが実施された。今回は、仮担当として合宿の計画を進めている太田剛先生に聞くと、合宿は主に自習を中心として、60回生の目標である「背伸びをする、周りを見る、分かち合う」を体現したような内容を予定しているという。太田先生はこの勉強合宿を企画したきっかけについて「60回生の代から新カリキュラムとなり、入試でもわからないことが多くなってきているかと思いましたが、そのため少しでも生徒の希望通りにできるかと教師の間で考えていた時に案の一つです」と話す。しかし、実際の実施状況についてはまだはっきりとした計画は決まっておらず、実施するかについてもアンケート

結果をしっかりと吟味してから決めるそうだ。アンケートの回答率はまだ500人中150人しか回答がないそうで、まだ吟味する段階に入っていないという。太田先生は「この取り組みは皆さんにとって勉強のきっかけ、あるいは自分を変える経験となつてほしいと考えています」と話した。(月)

生徒の可能性を切り開いていきたい

厚生労働省と警察庁が2023年3月に発表した小中高生の自殺者数は514人で、その中で高校生は354人と全体の約70パーセントを占めていた。このニュースを聞いたとき、普段深刻に考えたことがないため気づかなかつたが、全国で自殺してしまう高校生はそんなになくさんなのかと、驚きと悲しみの気持ちでいっぱいになった。この夏に放送されたという「最高の教師 1年後、私は生徒に『された』というドラマがある。卒業式の日、1年前の始業式に戻り、自らの死の運命を変えようとする生徒を救うという話だ。このドラマの中で、自分の居場所がないと悩む女子生徒がいた。友達から離れて行ってしまおうとひどく怯え、常に誰かに合わせている。その女子生徒を好いている男子生徒がいる。悩む彼女に向けて言った彼のセリフが「居場所なんて誰にもないよ。そこに自分が立つただけでいいんだよ。そこに立つたら誰かが寄ってきてくれるかもしれないじゃないか。錦城生の中にも同じように、自分の居場所を探して、悩んでいる人がいるかもしれない。だが、その居場所が見つからない、もしくは見つけたと思う居場所の相手に拒否されてしまったとき、それに悩んで自らを追い込んでしまふ必要はあるのだろうか。居場所とは「どこか」ではなく、自分が今立っている「ここ」だと思ってみてはどうか。「論語」で有名な孔子は、「徳は孤ならず必ず隣あり」という言葉を残した。徳のある者は孤立することがなく、理解し助力する人が必ず現れるという意味だが、自分なりに努力をしていけば、必ずあなたの頑張りを認めてくれる人が、あなたのことを心配してやってきてくれるだろう。(紫)

大きな目標を達成できて嬉しいです

靴下の自由化は生徒会の先輩方と協力してきた大きな目標の一つだったため、任期のうちに導入を決定することができてうれしいと語った。

監査委員長

監査委員長を務めた加園鈴也さん(3K)は公約として、代議員をクラスの枠にとらわれず、やる気のある人から選挙で選出された代議員を活躍にしようという「代議改革」を掲げていた。この公約達成については加園さんは「自分個人としては公約達成に向けて動くことはできませんでしたが、しかし代議員の方々の頑張りがあった

公約が達成できず悔しいです

半年前にはほかの仕事に追われていて実現できなかったため、公約の達成度は50%と語っており、任期を終えた現在は「前回と変わらず、他にも

皆が楽しめる文化祭達成度は100%です

また、今年から復活した飲食企画については「誰も経験がなく手探りの状態で企画を進めたので、待ち時間がとても長くなってしまったりなど様々な反省点も出てきました」と振り返る。

むらさき草

た小中高生の自殺者数は514人で、その中で高校生は354人と全体の約70パーセントを占めていた。このニュースを聞いたとき、普段深刻に考えたことがないため気づかなかつたが、全国で自殺してしまう高校生はそんなになくさんなのかと、驚きと悲しみの気持ちでいっぱいになった。この夏に放送されたという「最高の教師 1年後、私は生徒に『された』というドラマがある。卒業式の日、1年前の始業式に戻り、自らの死の運命を変えようとする生徒を救うという話だ。このドラマの中で、自分の居場所がないと悩む女子生徒がいた。友達から離れて行ってしまおうとひどく怯え、常に誰かに合わせている。その女子生徒を好いている男子生徒がいる。悩む彼女に向けて言った彼のセリフが「居場所なんて誰にもないよ。そこに自分が立つただけでいいんだよ。そこに立つたら誰かが寄ってきてくれるかもしれないじゃないか。錦城生の中にも同じように、自分の居場所を探して、悩んでいる人がいるかもしれない。だが、その居場所が見つからない、もしくは見つけたと思う居場所の相手に拒否されてしまったとき、それに悩んで自らを追い込んでしまふ必要はあるのだろうか。居場所とは「どこか」ではなく、自分が今立っている「ここ」だと思ってみてはどうか。「論語」で有名な孔子は、「徳は孤ならず必ず隣あり」という言葉を残した。徳のある者は孤立することがなく、理解し助力する人が必ず現れるという意味だが、自分なりに努力をしていけば、必ずあなたの頑張りを認めてくれる人が、あなたのことを心配してやってきてくれるだろう。(紫)

初心を忘れず頑張ってください

新生徒会に向けて「僕は監査委員長に就任する際本当に自分でもよいのかと不安になりました。もしかしらたら新生徒会でもそのように考えたい人があるかもしれません。しかし大丈夫です、案外やってみればどうにかなるので、初心を忘れずに1年間頑張ってください」とエールを送った。

錦城祭実行委員長

錦城祭実行委員長の田口桜子さん(2C)が立候補時に掲げた公約は「みんなが楽しめる文化祭を作る」というものだった。この公約に対して達成度を聞くと、田口さんは「100%です。当日はパンフレットをほとんど配り終えることができたほど、お客さんも沢山来たので良かったです」と笑顔で答えてくれた。

実際に使われた問題

10月4日(水)5・6限、1年生は体育館で講習を受けた。話をしてくださったのは、ベネッセコーポレーションの近藤奈央さん。4月に受けたGPS(Global Proficiency Skills)テストについて説明をしてくれた。このテストは「思考力」を問うものだ。与えられた問題から必要な情報を適切に抽出、類推したりする力や、自らの主張を論理的に表現する力が求められる。講習内で思考力を測る例と

来年度からは共通テストに

情報が追加されるなど大学入試も変わってゆく。近藤先生は「1年生たちに『Sだから、Aだから』という評価ではなく、自分の強みが何なのかに注目してほしい」と語った。

二年生

同じく4日、2年生は大学の先生などから話を聞く「学部説明会」の講習を受けた。文部や医学部、留学などの進路決定は人生において重要な分岐点となる。色々な学部について調べてみよう。

自分の強みに注目して進路説明会実施

して出されたのが「ウサギはどこに卵を産みますか？」という問題だ。選択肢は①「草の上」②「太陽の下」③「崖の下」の3つ。意見を求められる例に挙げ、大学で学ぶ経済学について説明が行われた。

様々な学部の紹介がされた。

例えば、中央大学経済学部模範授業では、オリエンタルランドの経済効果の説明を例に挙げ、大学で学ぶ経済学について説明が行われた。

経済学を学ぶのにおすすめの

人の特徴などを挙げながら経済学の魅力についても説明された。数学そのものは苦手で、経済や経営を学ぶのが得意な人にも、経済や経営を学ぶのが得意な人にも向いている。

また、自分自身が学びの

主役となることを掲げた「中央経済のゼミ」についての紹介があり、中央大学経済学部の魅力が語られた。最後に2025年度の中央大学経済学部の入試要項や卒業後の進路についての説明がなされた。模擬授業は終了した。

進路決定は人生において重

要な分岐点となる。色々な学部について調べてみよう。

特集 今に受け継ぐ教訓のバトン

東日本大震災当時の錦城を振り返る

今年の9月1日で関東大震災から100年が経過した。2011年には東日本大震災によって甚大な被害がもたらされた。今号では東日本大震災当時の振り返り、日頃の防災について改めて考えてみた。
(61回生共同取材)

知ることを大切に

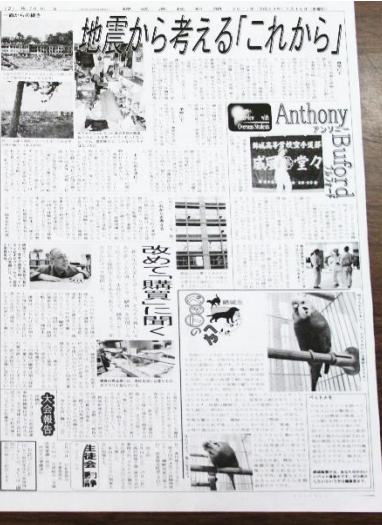
まず、東日本大震災時の錦城の様子を知る郷野康輔先生、事務所の齋藤嗣子さん、阿部一郎校長先生の3人に、当時の振り返りを聞いた。

「どのよう安全を確保するか、どうやって生徒を帰すか。そればかり考えていました」と語るのは発生時、成績を振り返っていただいた。

生、パソコンのディスプレイが倒れてきて揺れに気づき、すぐに体育館と校内にいた生徒に「出る」と声をかけたが、誰も地震に気づいていなかった。2度目の大きな揺れが来ると、教員の間に「生徒を帰らせよう」という話になったという。徒歩や自転車の生徒は帰れたのですが、電車の通学の生徒は電車が止まってしまつて帰れなかった。

自分が怖がったら生徒も怖がるということ意識していたが、怖がっている自分を見せってしまった面もあったかもしれないという。『校舎が崩れるかもしれない』とか、『みんな悪い方へと考えてしまおう。強迫観念との闘いでした』と語り、「この震災を通して『命を守る動き』を考えると自分の中に根付いたと思えます」と話してくれた。

郷野先生は「今では恒例行事のようになっていた避難訓練にもっとリアリティをもつて取り組んでほしい。『本当の訓練』とは何か、命を預かる側として皆に訴えたいです」と話す。「大惨事を風化させないために、これから大人になつた時に向けて『知ること』を大切にしたい。それだけで、行動も判断も変わると思っています」と訴えかけた。



東日本大震災発生当時の様子を取り上げた錦城高校新聞

命をつなぐための事前の備え

災害が発生した場合水道、電気、ガスなどのライフラインが断たれ、食料品や日用品などの供給が止まる可能性がある。その際に必要なのが防災グッズだ。一般的には3日分の食料や水を入れるのが最低条件とされている。

ト、チョコレート、乾パンなどを準備したい。その他にも9Lの水、貴重品(現金、印鑑、預金通帳、免許証などのコピーなど)防災ずきん、ヘルメット、マスク、軍手、手袋、救急用品(絆創膏、包帯、消毒液、常備薬、お薬手帳など)、懐中電灯とその予備電池も必要とされている。家庭での備えを見直してみよう。



項目	個数
軍手	1
フェイスタオル	1
マスク	3
キーホルダーのライト	1
ホイッスル	1
簡易トイレ	1
大人用レインコート	1
ポケットティッシュ	1
絆創膏S	1
絆創膏M	1
絆創膏L	1
ウェットティッシュ	1
ハイブリッドシート	1
スーパーバランス	1
キャンディ	1
水500ml	3

錦城に準備されている防災備品セットの中身一覧



生徒の安全を最優先に行動しました

「備えることが大事」

旧校舎の印刷室で仕事をしていた事務所の齋藤さんは、当初揺れに気づきはしたがすぐに取まると思い、逃げなければならぬと意識したという。しかし一向に収まらない中で他の職員と避難し、しばらくたつてからとんでもないことが起きたと語り、恐ろしくなつたと語った。夜になり、帰れなかつた所沢方面の生徒たちを自らの車に乗せて、家まで送つた。その後、学校に戻つて今度先生を都心まで送つたため、自宅に着いたのは翌日の朝3時半だったそうだ。

「今起きたらどうすべきか」
学年末テストの最終日、テストの採点をしていた校長先生。地震が発生したとき、「ある先生の机で物が崩れてしまつたり、高齢の先生は椅子から転げ落ちてしまつたりした。その光景が非常に怖かったです」と職員室の様子を鮮明に語った。建て替前の旧校舎では、3、4階から外壁が落ちてきたことも恐怖だったと当時を振り返った。



常に最新の防災を取り入れています

現在、学校では定期的に生徒だけでなく教職員が避難訓練を行う機会を設ける。地震や火災、不審者が現れた際などのマニュアルを作つて備えを取り入れるようにしている。これから起こりうる様々な災害に対して「校長の心構えとして、どんな状況下でも適切に冷静な指示を職員に出し、生徒みんなの命を守ることを最優先したいです」と話す。そのため、生徒にも廊下や体育館の整理整頓を日ごろから心がけてもらい、いざ災害が起こつた際に物が散乱して避難できない、などの状況を作らないことが重要であるという。

校長先生は、錦城生に心掛けてほしい災害への在り方について「災害はいつ起こるか分からないものですが、かといって常に警戒し続けるのも疲れてしまうことでは。ですから、通学中などのふとした瞬間に今、災害が起きたらどうするべきなのかということを考えてほしいです」と語った。

もし、小平で災害が起きたら？ 小平市役所防災危機管理課で聞いてみた

錦城がある小平市の災害対策はどうか。また策を知るために、小平市役所「小平市防災マップ」では避難所や避難場所などの防災危機管理課の堀口大悟 難場所や避難所などの防災さん、櫻井博之さんにお話を聞いた。災害対策としてまず認めるべきは、各々大切な役割がある小平市では「小平市地域防災計画」には各々大切な役割がある「計画」として資料を作成している。例えば「避難場所」としての資料には被害の広いグラウンドなどの身を想定や地震時の対応、災害に守るための場所のことで、一冊にまとまっている。この名前であるが、もしもの時に資料は小平市のホームページからダウンロードできる。こういった違いも把握しておくことが大事だ。



錦城周辺の小平市防災マップ(小平市ホームページより引用)

正常性バイアスとは？

堀口さんによると実際には災害が発生したときの対応で最も心がけることは、自宅が安全な場合は無理に外出を必要としないということだそう。避難とは「避難所」として避難することではなく、避難所に行くことを指している。

災害の雰囲気を感じる ～立川防災館で防災体験～



編集委員ががれきが散乱中での救助を体験

私たちは8月31日(木)に東京都立川市泉町にある東京消防庁立川都民防災教育センター(立川防災館)を訪れた(都内には他に池袋防災館、本所防災館がある)。立川防災館では地震や火災、救出救助訓練などの体験コーナーがあり、実用的な学びを得ることが出来る。今回、私たち編集委員は地震体験、煙体験、VR 防災体験、救出救助訓練の4つを体験した。地震体験は家を模してつくられたセットに入り、装置が揺れを起こすことで地震の揺れを体感できるというものだ。今回は今から100年前の9月1日に起こった関東大震災のモードを体験した。煙体験では無害の煙が充滿中での避難を体験できる。煙の中は思った以上に視界が悪く、火災時の避難の難しさを痛感した。煙を使用した体験なので学校で行われる訓練よりも緊張感があり、より実践的な行動を学べた。

「実体験を通して災害時の行動につなげてほしい」

館内を案内して下さった小林辰雄さんによると、立川防災館は地域の方たちに楽しみながら防災について学んでほしいという思いから、体験型の防災学習施設として1992年の4月26日にオープンしたそう。開館以来、約235万人の人が訪れており、特に子供連れの割合が多いそう。そのため、楽しくて明るい雰囲気の中で対応することを意識しているのだという。近年、災害が相次いで起きている中で防災館が果たしていきたいことを小林さんは「実際に体験しているのとしていないのでは災害に直面した時の安心感が全然違うと思います。防災館で体験してもらつて来館者の皆さんが実際の災害で行動できるようになってほしいと思います」と語った。普段の錦城で行われている避難訓練では真剣に取り組んでいる人が少なく、避難訓練のための避難になってしまっているように見受けられる。立川防災館ではただ防災について学べるだけでなく実践を通して防災の基礎を身に付けることができる。関東大震災から100年を迎えた今、一度立川防災館を訪れて、防災の大切さを再認識してほしい。(入館料無料。休館日は毎週木曜、毎月第3金曜、年末年始。開館時間9時～17時)

多岐の人々が集まる避難所では環境の変化やストレスで心身ともに影響を及ぼしたりする可能性もある。様々な避難の形に気づかれるよう、小平市では災害時の生活用水確保のために市内の井戸所有者の協力を得て震災対策用井戸というものを指定している。そして、東日本大震災での経験を踏まえ小平市と近隣・遠隔市町村との協定締結を推進しているという。